

參上御在所云々、廿四日己未、北の方尙侍、少姫君乘輦車、參上御在所女房徒步又云々山崎河渡。船裝束、播磨守廣業一向奉仕、漏船四艘、造屋、葺檜皮、又造廊、略中 今日渡間、遊女數艘參來、大殿、攝政、賴通原及卿相舞人、殿上人、諸大夫悉脫衣給之、多無著一衣之者、女人脫衣、從簾中取出、主人執給云云、左又見經記

〔吾妻鏡〕壽永三年○元暦正月廿一日辛亥、今日及晚、九郎主義經源
兼光、是爲木曾使、爲征石川判官代、日來在河内國而石河逃亡之間、空以歸京於八幡大渡邊、雖聞主
人滅亡事、押以入洛之處、源九郎家人數輩馳向、相戰之後、生虜之云云、

〔拾芥抄〕下本大橋

山崎今大
渡

〔承久軍物語〕四。大。わたりにむかはれしむさしのせんじよしうち、ざいをこぼちいかだをくみて、大せいをとりのせ、わたしつゝた、かひけるゆへにくはんぐんことぐくはいばくしたりけり、

〔太平記十四〕將軍御進發大渡山崎等合戰事

大渡ニハ、新田左兵衛督義貞ヲ總大將トシテ、里見、鳥山、山名、桃井、額田、田中、籠澤、千葉、宇都宮、菊池、
結城、池風間、小國、河内ノ兵共一萬餘騎ニテ堅メタリ。略中 明レバ正月○建武九年ノ辰刻ニ、將軍
尊氏足利八十萬騎ノ勢ニテ、大渡ノ西ノ橋爪ニ推寄、橋桁ヲヤ渡ラマシ川ヲヤ渡サマシト見給ニ、

〔延喜式〕雜五十、凡山城國泉河樺井渡瀬者、官長率東大寺工等、毎年九月上旬造假橋、

〔山州名跡志〕十六樂郡、泉川渡、云樺井渡出延喜式○中

木津、所名右船渡川、泉南村是也、號木津者、南都東大寺大佛殿建立ノトキ、諸國ヨリ所運送ノ材